



5/18 第1回の計算特講 みんな一生懸命やりました。またやりますよ！ 普段の中学生の学習のようす。塾ではみんなちゃんとやるんでが・・・！



高校生の勉強の様子



北陽の後鳥さんと東の成田さんが、ミスドと手作りのクッキーを差し入れてくれました。



5月もいっぱい差し入れやお土産をありがとうございました！



テニスのダブルスで3位になり全道大会に出場する湖陵1年の古川君。 バドミントン団体のダブルスで全道大会に出場する北陽1年の藤井さん。 水泳50mと100mで両館で行われ全道大会出場の高専2年の村上君。 3年の小澤君。全道でも頑張ってるね！

学2年男子。やめさせようとする母親に暴言や暴力を浴びせ「イライラする」と友人も殴った」
「ゲームを母親に取り上げられた小学6年男子。包丁を手に振り回したため、母親が幼いきょうだいを連れて逃げ出し、警察を呼んで緊急入院させた」
これらは、心療内科医の増田彰則医師(67)が、鹿児島市内に開くクリニックで診察したケースだ。「ゲーム依存が人格崩壊を招いている」と増田医師は嘆く。

ゲーム依存には、のめり込んで生活が乱れるだけでなく怖さもある。海外の研究では、暴力的なゲームや映像の視聴を長時間続けると、他人の痛みを感じる中枢神経の活動が抑制され、攻撃性が高まるとの報告も出ている。そうした実例を見てきた増田医師は「ゲーム依存の受診は4割余りが親だけの相談で、本人は来ない。治療に結び付けるのが難しい」と対策の取りにくさを指摘する。【金秀蓮、小川祐希】

増田医師は鹿児島県内の小中学生らを対象に、ネットゲームと睡眠について米精神医学会の判断基準を使って作成した質問票でアンケートを取り、数年間約28000人分のデータを集めた。18年度調査では、ネット・ゲーム依存の疑いがあると判定された小学校低学年の男子(保護者が回答)は20%、高学年男子は18%に達した。増田医師の診療所でも、16〜17年に受診した小中高生110人のうち23人が小学生だった。

また、乳幼児5202人の保護者への調査では、1〜6歳の全年齢で3割以上が1日にスマホを1時間以上触っており、6歳児は4分の1超がゲームを1時間以上していた。発達段階にある子どもの脳は未熟で、大人よりゲームの刺激を受けやすい。しかも依存に陥るスピードは速く、逆に回復はしにくい。久里浜医療センターの樋口進院長は「ゲームに触れるのが幼いほど危険性が高く、一気に依存症に進む。スマホやゲームを与えるのは遅ければ遅いほどいい」と強調する。

「AI時代を生き抜くには・・・」
「AIロボ」の国立情報学研究所の新井紀子教授は、人類がAIに勝てるかもしれない「読解力」が、今の子供たちには決定的に欠けていると指摘し、国語教育に力を入れなければと警鐘を鳴らしています。小学校からの英語教育、プログラミング教育をやっている場合ではないと。それはその通りです。
しかし、それ以前に今の子供たちに欠けている自
個性や多様性を重視すると言いつつながら規則や制服
で管理し、さらに建前論や過保護、過干渉の中で育
つ子供たちに、自分たちで考え行動する力など身に
つくはずがありません。日本の子供たちの読解力は
OECD加盟国の中でも、ずっと前から下位にいま

「ゲーム障害による人格崩壊と慰」
世界保健機関(WHO)が25日、最新版の国際疾病分類で依存症の一つに位置付けた「ゲーム障害」は、なりやすい対象が未成年層だという点に大きな特徴がある。オンラインゲームなどの人気の高まりに専門家が警鐘を鳴らす中、ゲームは若者に支持された新たなスポーツとしての市民権も既に獲得しつつある。「ゲームをする時間を決めても守らない小

厚生労働省の研究班は18年8月、中学生の7人に1人に当たる約93万人にネット依存が疑われるとの推計を発表した。前回調査からの5年で倍近くに増えたが、さらにその下の世代にも広がっている可能性がある。
増田医師は鹿児島県内の小中学生らを対象に、ネットゲームと睡眠について米精神医学会の判断基準を使って作成した質問票でアンケートを取り、数年間約28000人分のデータを集めた。18年度調査では、ネット・ゲーム依存の疑いがあると判定された小学校低学年の男子(保護者が回答)は20%、高学年男子は18%に達した。増田医師の診療所でも、16〜17年に受診した小中高生110人のうち23人が小学生だった。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土		
休塾		■美原定期・共栄(芸体)	■鳥取定期(5教科)	■共栄定期(5教科)			休塾				■富原・鳥取西定期(20)			★1000分特講	★1000分特講	★漢字検定★				休塾				■明輝定期(7)	■湖陵・北陽(7・高専)10定期	■江南定期(7)	休塾				
<p>中3生の入塾受付は6月末までとしますので、宜しくお願いします！</p> <p>ストップ 過保護・過干渉！</p> <p>6月の予定</p> <p>一日に一度はR-GROUPの確認をお願いします。</p>																															

☆第1回計算特講の結果☆
計算特講終了者
5/18に実施した計算特講は1年生が200題、2年生が220題、3年生が270題の問題に挑戦しました。終わった人の中で一番早かったのは1年生の村上君でした。各学年とも最初の定期テストは計算がメインです。テストでも結果が出せるように、正確に、そして早くを心掛けて取り組みましょう。次回の計算特講は7月13日(土)です。

☆第1回1000分特講☆
15,16日で定期テスト対策の1000分特講を実施します。この特講は各学校、各学年のテスト範囲に合わせた問題に2日間、徹底して取り組みます。15日は13:00~20:00、16日は9:00~18:00まで。(有料、希望者)

孫は1万人に1人の難病…「優衣奈の将来のため」祖父の決意



9年前、長女が初めて授かった子は、約1万人に1人といわれる子どもの難病だった。正直、最初は諦めかけた小さな命。だが身を削るように、わが子へ一心に愛情を注ぐ娘夫婦の姿に、建設会社会長の末永和之さん(76)＝福岡市城南区＝は目が覚めたような気がした。「孫のため、

同じような子どもたちのために、自分も役に立てるかなあ、と思うてね」。目指すのは、重い障害者を支える福祉施設の開設だ。孫の優衣奈さん(9)を中心に、気が付けば家族の結束は、しっかりと強まっている。

優衣奈さんは生まれつき、脳の形成不全がある小児慢性特定疾病の「全前脳胞症」。口唇口蓋裂もあった。長女の東麻衣子さん(39)と夫の亮二さん(39)が診断を告げられたのは、出産が近づいてから。重症なら生存率は高くないと伝え聞いた和之さんは、重い障害の子を抱える苦労を想像し、首を振った。「重症なら、延命措置は諦めてもいい」とさえ考えた。

麻衣子さんは福岡市内の病院で3日かけて無事出産したが、病室で待機していた和之さんは看護師から会うよう勧められても「体が動かんやっただ」。妻の雅子さん(74)は娘と孫の元に向かった。どんな状態か、とにかく心配だった。涙ぐんで部屋に着き、目に飛び込んできたのは、ベッドの上でニコニコして優衣奈さんを抱く麻衣子さんの姿。2925グラムで生まれ、手も足も元気に動かしていた。

「お母さん、見て。かわいいやろ?」。黙って横に座る雅子さんに、麻衣子さんは続けた。「かわいいやろ? 私ね、お母さんにいっぱい迷惑掛けると思うけど、もう、一生懸命育てるから、力を貸して」…。

「甘やかして育ててきた」娘がもう、すっかり母の顔になっていた。「そうか。一生懸命育てればいいんだ。麻衣子と一緒に、頑張ればいいんだ」。雅子さんの心は落ち着いていった。

当時、亮二さんは広島市の自動車メーカーに勤務。麻衣子さんは、いったん退院した後も頭の手術をするなど入退院を繰り返した優衣奈さんが2歳半になってから、ようやく亮二さんの元に帰った。でも、胃ろうからの栄養注入は日に十数回。てんかんも多く、たんの吸引はひっきりなし。麻衣子さんは1時間も続けて寝られない。訪問看護も十分ではなかった。近くで頼れる大人は夫しかおらず、1年半後、やむなく娘と2人、実家に戻った。

「こんな大変なことが世の中にあるのか」なるべく両親に負担を掛けまいと、麻衣子さんはほぼ1人で世話をした。「自分が倒れたらまずい」と考え、食事の量も増えた。

和之さんには、娘が心を病んでいるように映った。重い障害児がいる親が離婚したり、子が40歳を超えても1人で育てている母親がいたりすることも耳にしていた。「こんな大変なことが世の中にあるのか」。がくぜんとした。

世話をする大人が倒れていなくなったら、孫はどうなるんだろう。娘たちを主に食事面で支え続けた雅子さんもずっと、もやもやした思いが消えなかった。

そして5年前。亮二さんが仕事を辞め、妻子の元で暮らすことを決意する。「福祉の勉強をして、将来的に、優衣奈のような子どもたちのための場所を立ち上げたいんです」。亮二さんから、そんな相談を受けた雅子さんは思わず、和之さんの袖を引いた。

「お父さん、この家を売ってでも、この人の仕事をする場所をつくらう」和之さんも腹を決めた。建設会社を経営して十数年。会社に協力を求め、人脈も生かして、娘一家をバックアップしよう、と。

「娘の将来の行き先をつくりたい」

それから亮二さんは短大に2年通い、介護福祉士資格を取得。地元で重症児者を預かる施設に勤めた後、和之さんの会社に入った。

計画では同社が来年、放課後等デイサービス、児童発達支援、生活介護、短期入所、日中一時支援を手掛ける重い障害者向けの施設を同市早良区に開設する考え。現在はほぼない18歳以上も対象とする。亮二さんは「娘の将来の行き先をつくりたい。幼児から大人まで、一貫して支えられる場

所にしたい」。麻衣子さんも「保護者が安心して預け、子どもも遊びに行きたいと思える場所に」と願う。

「娘たちの家族愛を間近で見て、この夫婦なら信頼できるし、会社にも応援してくれと言えた」と和之さん。事業が軌道に乗るまで支え、最終的には「優衣奈の将来のためにも」2人に独立してもらおうつもりだ。

優衣奈さんが小学生になる年、雅子さんは紙に詩を書いた。「小さな体に大きな痛みをもって生まれたあなたを、私たちは全力で守ろうと思った。今、大きな瞳で時に声を出して笑うあなたに、私たちは生かされている」。枕元に置き、今も寝る前に読み返している。

西日本新聞社 5/25 Yahoo! ニュースより



地球温暖化

奪われる未来 若者、怒れ 対策訴え学校スト

ストグreta・トゥーンベリさん(16)



【ストックホルムで八田浩輔】気候変動の危機を訴える若者たちの抗議活動が今、世界規模で広がっている。そのきっかけを作り、国際社会の注目を集めるスウェーデンの環境活動家、グreta・トゥーンベリさん(16)が毎日新聞のインタビューに応じた。グretaさんは「若い人たちは、私たちの未来が奪われようとしていることに怒るべきだ」と語り、世界各国が地球温暖化対策の新枠組み「パリ協定」が掲げる目標に沿う対策をとるまで抗議活動を続ける意思を示した。

グretaさんは無名の学生だったが、たった一人で始めた抗議運動が1年もたたないうちに世界中の若者らに拡大。学生たちが週に1度授業を休んでデモをする「学校ストライキ」が各地で起き、今年3月半ばに世界規模で連動した抗議運動には150万人以上が参加した。一躍、気候変動問題の世界的なシンボルとなり、今年のノーベル平和賞の候補者にもノミネートされている。

グretaさんは、「脱化石燃料」に向かう国際潮流と逆行して石炭火力発電を推進する日本のエネルギー政策について、「何の期待もなかった。世界のどの国も同じように(気候変動対策を)ほとんど何もしていない」と指摘。「『世界をリードする』などと言いながら、ひどく優柔不断だ」と批判した。

欧州では若者の声の高まりなどを受け、欧州連合(EU)の一部の加盟国が、気候変動に対応するEU予算の引き上げなどを提案した。グretaさんはこうした動きを歓迎しつつ、「注視すべきは温室効果ガスの削減だが、実際には減っていない」と語った。

一方、学校ストライキは一つの手段に過ぎないと強調。「地球規模の問題に対して、私たちは全員何かをする責任がある」と訴え、「最も大切なのは、気候変動について学び、それが何を意味するかを理解し、自分ができるのは何かを考えること」だと語った。

グretaさんは昨年8月、スウェーデン政府に気候変動対策の強化を求め、学校を休んで一人で座り込みを開始。その活動が目ざされ、同年12月の国連気候変動枠組み条約第24回締約国会議(COP24)で演説した。地球環境の危機を招いた大人の責任を鋭く批判するスピーチが若い世代の共感を呼び、運動が世界的に広がった。マクロン仏大統領やローマ法王なども面会するなど、世界の政治、宗教指導者らも無視できない存在となっている。

毎日新聞5月20日

学校ストライキ「行ってる場合じゃない」地球守れ、世界180万人



【ブリュッセル八田浩輔】若者が学校を休んで気候変動の危機を訴えるデモが24日、世界各地で行われた。主催者団体によると、日本を含む世界125カ国2350都市で学生以外も含めて約180万人が参加した。

「学校ストライキ」はスウェーデンの環境活動家、グreta・トゥーンベリさん(16)が昨年夏に一人で座り込みを続けたことがきっかけ。各地でデモが連動したのは3月15日に次いで2度目。ブリュッセルのデモに参加したケイトリンさん(17)は「世界を変えられないと考えるのは間違いだ」と話した。

毎日新聞5月26日